

## 古楽の新しい風

### 木村 恵理

チェンバロ奏者/合唱  
ピアニスト・作編曲家



グレゴリオ聖歌やルネサンス音楽を当時の楽譜で学びたいと参加したア・カペラのアンサンブルグループスコラ・ポリフォニカ名古屋<sup>※</sup>は、2024年3月に演奏会を開催、15世紀の巨匠デュファイのミサ曲を演奏しました。(※<https://www.facebook.com/schopoly/>)

2022年第1回目の演奏会はコロナ禍規制で広報活動や収容人数ともかなり制限したなかでの開催でした。また、本来カトリックのミサ曲は聖堂で修道士達が一つの大きなクワイヤブック(楽譜)を囲んで密集して歌うというスタイルなのですが、それもかなわず一人ひとりが楽譜を持ち距離をとり、マスク着用で歌うものでした。よって今回の演奏会は、広く宣伝もでき、本来の密集隊形で演奏できた、名古屋では実質初の演奏会となったことと思います。

ルネサンス時代の曲は全日本合唱コンクールの課題曲や、名曲集として収録されている出版譜もありますが、それらはかなりシンプルな作りの曲です。私たちはルネサンス音楽のなかでも作曲技法が複雑でハーモニーも重厚な初期の作品に取り組んでおり、滅多に生で聴けない曲をご紹介します。

休憩時間や終演後には、舞台に据えてあるクワイヤブックの当時の記譜法で書かれた楽譜をお客様が興味深くご覧になっていました。

さて、古楽の分野も近年随分研究が進みました。長く西洋に滞在し古楽を学ばれた方々の帰国後、長年にわたる尽力によって、音大では学べなかった古楽を深掘して学びたいという私達も学ぶ場が増えたように思います。西洋では「当時の音楽は当時の楽譜を見て演奏する」ということが日本よりもずっと浸透しているそうです。

「そんな難しそうな楽譜読むなんて無理！」と思うかもしれませんが、今私たちが使っている現代の楽譜の祖先ですので意外と読めるかと思えます。また当時の楽譜で取り組むと、音楽の捉え方・感じ方が変わり、作曲家の意図した音楽をより表

現できることに気づきます。ルネサンス音楽は地味だしちょっと退屈だな、という方も「歌う側」で参加するときっとイメージが変わると思います。今後、いろいろな合唱団が演奏会でこの時代のミサ曲やモテットをとり上げるとき、ひとつの大きな楽譜を囲んで歌うスタイルが見られたらいいな、と思っています。

フォンス・フロリス古楽院院長花井哲郎先生ご指導のもと活動しているグループは、東京に2団体と、関西、名古屋にあります。それぞれの単独演奏会のほかに、年一回合同で発表会(他の中世、ルネサンス講座のクラスも含む)もあり、参加して楽しんでいます。いきなりグループに所属するのは少し気が引ける、という方は講座(オンライン&対面)もあります。詳細は以下をご覧ください。

【フォンス・フロリス2024講座案内】

<https://fonsfloris.com/k/k2024/>

問合せ【コーラスカンパニー】電話 075-415-8686



フォンス・フロリス古楽院は西欧中世・ルネサンス・バロックの音楽を学ぶ場です。その時代に立ち戻り、研究や演奏実践を通して知見を広げることを目指しています。古い楽譜を使って実際に歌っていく歌唱実践講座の他、音楽史や文学、美術など講義系の講座もあります。オンライン講座・動画視聴講座は、終了した回もアーカイブ動画で視聴できます。

### 木村 恵理 プロフィール

合唱、バレエスタジオのピアニスト。またチェンバロ奏者としても大阪国際音楽コンクール第1位、ソリスト・通奏低音奏者として活動。東京国際芸術協会「全日本作曲家コンクール」歌曲及び合唱部門に入選。合唱団グリーン・エコー(名古屋)委嘱作品の他、合唱編曲作品多数。最近では写本でルネサンス・ポリフォニーを歌うスコラ・ポリフォニカ名古屋に参加。名古屋音楽大学授業補助員。

